

## 読解ストラテジーによるリーディング指導

### - 読解力養成への試みと効果 -

〇〇〇立〇〇〇〇高等学校 〇〇 〇〇

#### 1 はじめに

学習指導要領の第8節第1款で求めている「実践的コミュニケーション能力」を育成するためには、生徒の英語に対する興味、関心をいかに引き出し、伸ばしていくのかということを常に念頭において授業をしなければならない。しかし、実際には英語を苦手と感じている生徒や好きな教科であると感じながらも学習意欲を継続できずにいる生徒、学習効果を実感できずにいる生徒が少なからず見られる。これは、高等学校の授業が読解中心の授業になっており、中学校時代の授業形態との違いに生徒が戸惑っていることの現れではないかと考える。

生徒が、中学校で学んだ学習内容を高等学校の学習へとつなげ、入学直後の高い学習意欲を保持したまま積極的に授業に取り組んで「実践的コミュニケーション能力」を身につけるためには、リーディング活動での個々の読解力を確かなものにすることが肝要なのではないだろうか。そのためにはどのような指導法があるのだろうか。

#### 2 主題設定の理由

本校に入学して来る生徒の大多数は大学等に進学することを希望しており、入試科目の一つとしての英語力をつけたいと考えている。これまでの授業を振り返っても、そうした生徒の希望に応える意味からいわゆる英文読解中心の授業になっていたことは否定できない。

しかし、生徒の読解力には一人ひとりに個人差があり、英文をどのように読み進めるかなどの取り組み方にも違いが見られる。中には、一語一文にこだわりすぎるあまり、分からない箇所が出てくるとそこで読む意欲を失ってしまうという生徒もいる。生徒のリーディング活動における課題はどのような読み方をすれば英文読解を効果的に進めることができるのかを生徒自身が理解できていないことであると考えた。

私は本研究において、どのような「読解ストラテジー」を用いれば生徒の読解力が向上し、どのような工夫をすれば「実践的コミュニケーション能力」につながる英語力を身につけることができるのかを考えていきたい。

#### 3 研究内容

- (1) フレーズ・リーディングを活用した読解力養成
- (2) プレ・リーディングを活用した読解力養成
- (3) スキャニングを活用した読解力養成

#### 4 研究計画

##### (1) 対象生徒・科目等

| 年度     | 対象生徒     | 科目     | 単位数 | 教科書                                       |
|--------|----------|--------|-----|-------------------------------------------|
| 平成18年度 | 2学年3クラス  | 英語     | 5   | PRO-VISION (桐原書店)                         |
| 平成19年度 | 3学年4クラス  | リーディング | 3   | PRO-VISION READING<br>(桐原書店)              |
|        | 3学年選択クラス | リーディング | 3   | DUET vol. 2 (美誠社)<br>英語速読トレーニング<br>(桐原書店) |

##### (2) 調査・指導計画

| 段階      | 第1段階                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 第2段階                                                                                                                                                                                                                                                       |
|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 期間      | 平成18年7月～平成19年3月                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 平成19年4月～平成20年3月                                                                                                                                                                                                                                            |
| 調査・指導内容 | <p>実態調査A (平成18年7月)<br/>英語学習に関する意識調査を実施し、実践的コミュニケーション能力を身につけるための方策を見いだす。</p> <p>実践指導A (平成18年7～9月)<br/>調査の結果をふまえ、フレーズ・リーディングの効果に着目し、授業での指導及び夏季休業の課題として指導する。</p> <p>実態調査B (平成18年9月)<br/>夏季休業課題で行ったフレーズ・リーディングについてのアンケートを実施する。</p> <p>実践指導B (平成19年2～3月)<br/>実態調査Aの結果をふまえ、プレ・リーディングの効果に着目し、段階的に指導する。</p> | <p>実態調査C1 (平成19年4月)<br/>新学年の生徒の読解力に対する課題を把握する調査を実施する。</p> <p>実践指導C (平成19年4～11月)<br/>速読用教材を使用し、スキニングによる読み方を継続して指導し、読解力の向上を図る。</p> <p>実態調査C2 (平成19年10月)<br/>スキニングの指導効果について調査する。</p> <p>実態調査D (平成19年11月)<br/>スキニングによる読み方で生徒の読解に対する意識がどう変化したかを把握する調査を実施する。</p> |

#### 5 研究実践

##### (1) フレーズ・リーディングを活用した読解力養成 (平成18年度実施)

###### ア 概要

平成18年度に担当した2学年の生徒対象に事前調査を行い、英語学習に対する意識を把握した上で、生徒の読解力を高める方策としてフレーズ・リーディングを指導した。

## イ 実態調査 A（平成 18 年 7 月実施）

### （ア） 調査目的

生徒が英語あるいは英語学習に対して苦手意識を抱いているのは、中学校と高等学校との授業形態・学習方法の違いが原因であると仮定し、今後の指導方針を立てるために行った。

- a 中学校時代の英語学習の内容を把握する。
- b 生徒の英語に対する意識や知識の度合いを把握する。

### （イ） 調査方法

アンケート調査

### （ウ） 調査内容・結果

中学校時代の英語の授業について

- 1 会話中心の授業（31.1%）      2 文法中心の授業（42.9%）
- 3 文法と会話の授業（15.1%）      4 その他（10.9%）

ア 得意な事柄（自由回答）（多い回答順に記載）

なし 動名詞 リスニング 語彙 並べかえ 文型 読解 不定詞 態  
関係詞 分詞 会話表現 構文 発音 時制 文法全般

イ 苦手・もっと勉強したい事柄（自由回答）（多い回答順に記載）

読解 リスニング 発音 文法全般 並べかえ 関係詞 態 文型 時制  
語彙 完了形 比較 前置詞 不定詞 助動詞 分詞 構文 英作文  
冠詞 なし

現在の英語学習で困っていること（自由回答）（多い回答順に記載）

英作文 読解 語彙 勉強法 発音 文法全般 応用力 態 完了 時制 文型  
リスニング 中学校既習の事柄 その他

英語学習での目標（類似回答をまとめて記載）

英語を完璧にしたい 語彙力を増やし読解力をつけたい 得意科目にしたい  
会話ができるようになりたい 学力をつけたい 英字新聞を読めるようにしたい  
洋楽・洋画がわかるようになりたい リスニング力をつけたい 英検を取得したい  
英作文の力をつけたい 長文を速く読めるようにしたい 文法をマスターしたい  
センター試験に対応できるようになりたい 将来教える立場の人になりたい 他

### （エ） 実態調査 A の考察

- a これまでに参加した研修会等での知見から、中学校の英語の授業は会話形式で進められており、生徒の話す能力を伸ばすことを中心に展開されていると推測していた。

しかし、このアンケート調査の結果を見ると、文法項目の説明にも多くの時間を確保している中学校が多いことが分かり、本校で行っている文法指導につなげていくことができることがわかった。

- b 生徒には、英語学習に対する前向きな意識があることがうかがえる反面、多くの生徒が何らかの学習項目において苦手意識を持っており、その最たるものが読解であった。読解を苦手とし、英作文で困っている生徒像が浮かび上がった。このことから、本研究では、生徒の読解力を向上させることに重点をおくこととした。

## ウ 実践指導 A：フレーズ・リーディングの指導（平成 18 年 7～9 月実施）

### （ア） 目的

実践的コミュニケーション能力及び読解力を身につけるための文章の読み方として、フレーズ・リーディングに着目した。フレーズ・リーディングは、一語ずつ単語の意味をつなぎ合わせて文意を捉えるのではなく、語の集まりをフレーズにして文意をとるため、文頭から内容を理解することができるとともに文構造を把握しやすくなり、コミュニケーション能力の向上につながると考えたからである。

また、英文を読む方法には様々なものがあり、フレーズ・リーディングはその一つであることを生徒に理解させることにも留意したい。

### （イ） 手順

#### a 授業での指導

（a） 英文をフレーズごとに区切ってスラッシュを入れ、フレーズごとの意味を考えた後、文全体の意味・内容を捉えるように指導した。

（b） フレーズの区切り方なるべく小さなフレーズにする＞

|                                                                  |
|------------------------------------------------------------------|
| 主語 / （助動詞）+ 動詞 / 目的語 / 補語 / 名詞 + 形容詞 / 副詞 / 前置詞 + 目的語 / 接続詞 / など |
|------------------------------------------------------------------|

（c） フレーズを小さく区切ることで最小の意味のまとまりを理解し、そのまとまりの文中での働きを理解させる。

（d） フレーズごとの文中での働き（修飾関係等）を把握させる。

#### （e） 指導例

|                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------|
| Jesse / sailed up / past the equator / to the Azores Islands / and / then / down / past the bottom / of Africa. / But / things / did not always / go well / for Jesse. / He / nearly / hit / a whale. / For a few days / there was / no wind / and / he / couldn't move. / | ( Pro-Vision English II 桐原書店 ) |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------|

#### b 夏季休業の課題としての指導

（a） 教科書本文をフレーズ・リーディングで理解するプリントを作成し、学年全体の夏季休業課題とした。授業で学習したフレーズ・リーディングに習熟させることを目的とした。

（b） フレーズの区切り方＜フレーズの区切りを大きくした＞

|                                                                                           |
|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| 主語 + （助動詞） + （副詞） + 動詞 / 目的語 / 補語 / 名詞 + 形容詞 / 前置詞 + 目的語 + 前置詞 + 目的語 / 副詞 / 接続詞 + 副詞 / など |
|-------------------------------------------------------------------------------------------|

#### （c） 指導例

|                                                                                                                                                                          |                                |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------|
| Several minutes later, / the ambulance arrived / and / the injured drivers were taken / to a hospital. / Later / a police officer came / to the house of Dr. Robinson. / | ( Pro-Vision English II 桐原書店 ) |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------|

### （ウ） 考察

夏季休業課題は休業後の授業で取り扱い、前期期末考査に向けて、生徒がどのくらいフレーズ・リーディングを理解しているかを確認した。

課題の提出状況は概ね良好で約 9 割の生徒が期限までに提出したが、フレーズごと

の意味の捉え方には不十分なものが多かった。それは、提出が遅れた生徒の主な理由がフレーズの作成方法が理解できていないことだったことからもうかがえた。

これは、生徒のフレーズ・リーディングの理解自体に差が出てしまったことによるものと思われ、反省点の多い指導になった。

夏季休業課題は、生徒にとってフレーズ・リーディングを学び始めた初期段階であったにも関わらず、授業での指導の段階よりもフレーズの区切りを大きくしたため、形容詞や副詞の修飾関係に気づくことができないでいる生徒が多かった。

## エ 実態調査 B（平成 18 年 9 月実施）

### （ア） 調査目的

- a フレーズ・リーディングについて、夏季休業課題での効果を確認する。
- b フレーズ・リーディングに対する生徒の意識を把握し、今後の資料とする。

### （イ） 調査方法

アンケート調査（自由記述式）

### （ウ） 調査結果

課題のフレーズ・リーディングは分かりやすかったか。

#### 1 「分かりやすかった」

- ・ レッスンで扱った単語や日本語をよく覚えることができた。
- ・ 1 つ 1 つの文の意味が分かりやすかった。
- ・ 長い文は分かりにくいですが、フレーズ・リーディングは見やすい。
- ・ 単語や熟語がつかみやすかった。
- ・ 細かく理解することができた。
- ・ 複雑な文の時は分かりやすかった。
- ・ 文がどのように成り立っているのか分かりやすかった。
- ・ 試験の成績が上がった。

#### 2 「分かりにくかった」

- ・ 細かすぎた。
- ・ もう少し細かくしてほしい。
- ・ スラッシュの間の意味と文全体での意味が違う時があって混乱した。
- ・ もう少しペースをあげてフレーズ・リーディングをするとよい。
- ・ 全体の訳があればよい。
- ・ 熟語が 2 つのフレーズに分かれてしまって訳しにくかった。

今後もフレーズ・リーディングをしていきたいか。（無回答を除く）

1 「していきたい」（約 80 %）

2 「したくない」（約 20 %）

## （エ） 実態調査 B の考察

フレーズ・リーディングに触れたことのない生徒が多い中での指導、調査であったが、大多数の生徒がフレーズ・リーディングに対して肯定的な回答をしており、フレーズ・リーディングの意義を理解して実施以前よりも文意がとりやすくなったと答えている。このことから、本校の生徒においてフレーズ・リーディングが有効であることがうかがえた。

フレーズ・リーディングはこの後も引き続き指導し、次第に大きなフレーズで捉えることができるようにしたが、生徒の中にはその効果を実感してすぐに自らの読み方にフレーズ・リーディングを取り入れた生徒もいる。また、フレーズ・リーディングが苦手な生徒に対しては個別指導を行った。

## (2) プレ・リーディングを活用した読解力養成(平成18年度実施)

### ア 概要

文章を読む上ではスキーマが重要な役割を果たしているが、プレ・リーディングを用いて文章を読むことが生徒にどのような効果をもたらすのかを研究するため、内容スキーマに分類される文化的、科学的、技術的スキーマ等の社会全体の知識に関するスキーマ(谷口1992)を与えることにした。

フレーズ・リーディングと同様に実践的コミュニケーション能力を伸ばすことも視野に入れて指導した。

### イ 実践指導B:プレ・リーディングの指導(平成19年2月~3月実施)

#### (ア) 指導方法

- 生徒に、新しい題材に入る前に、その題材について予備的な情報等を提供するプリントを配布して、予めスキーマを提示してから文章に取り組む場面を設定する。
- プリントには、生徒が既に経験から得ている場面や舞台に関する知識や本文の要約などの情報があり、これらによってスキーマを活性化させる。
- 授業後にアンケートを実施し、生徒の意識を調査する。
- 作成プリント

### LESSON 7 "Two Flags, One Runner"

Question-----Before reading this lesson, answer the following questions.

1. Have you ever been to Australia?
2. Is it a large country?
3. What ethnic groups do you suppose live there?

Fill in the blanks on the following sentences. If you can't answer, discuss about them with your partner.

The Aborigines are the ( ) Australian people. They have been in Australia for about ( ) years.

Australia was found by ( ) in ( ). From that moment on, white people settled there from ( ).

### SECTION 1

Cathy Freeman was waiting for the day. It was September 25, 2000. She was about to run the 400 m final at the Sydney Olympics. Tens of thousands of Australian people in the Sydney Olympic Stadium were watching her. She won the gold medal, and then she did what she had to do. Running around the track with the two flags wrapped around her body.

アボリジニの歴史(日本語での説明文)

( Pro-Vision English II 桐原書店 )

## (イ) アンケート結果

(プレ・リーディング)教科書本文の題材についての説明プリントは必要か。

- 1 必要である(91%) 2 必要ではない(5%) 3 どちらともいえない(4%)

プリントの配布時期について。

- 1 新しいレッスンに入る前(37%) 2 新しいセクションに入る前(11%)  
3 本文を全部読み終えた後(49%) 4 その他(3%)

新しいレッスンに入る前には、どのような活動をすべきか。

### 1 教師の説明

- ・日本語で説明(22%)
- ・英語で説明(71%)
- ・日本語で説明し、重要な部分は日本語と英語で説明(7%)

### 2 説明の内容(複数回答可)

- ・題材の歴史
- ・単語や熟語
- ・全文のあらすじ

## (ウ) 考察

先行の研究(Johnson 1982, Hudson 1982 等)にもあるが、アンケートでも文章を読み始める前にスキーマがあると内容理解が進みやすいことが分かる。

また、生徒に英語学習のためのより良い活動環境を与えるためには教師が授業を日本語で行うよりも英語で行うことが必要不可欠であることも改めて確認できた。

## (3) スキャニングを活用した読解力養成(平成19年度実施)

### ア 概要

平成19年度に担当した3学年の生徒に対しても、事前・事後の調査を行いつつ、実態を把握しながら読解ストラテジーとしてスキャニングの指導を実践した。

### イ 実態調査C1(平成19年4月)

#### (ア) 調査目的

平成18年7月の実態調査Aの結果では、本校の生徒が英語学習において不得意としている項目の中で特に回答が多かったのが読解力であった。平成19年度の研究にあたり、新しく担当する生徒たちについても読解力を不得意と感じている生徒が多いものと推測し、英文読解の中でも特にどのような点に困難を感じているのかを把握するために実施した。

#### (イ) 調査方法

読解力を測るテスト

#### (ウ) 読解力を測るテスト作成の留意点

生徒が、英文読解のどの部分(段階)に困難を感じているのかを把握するため、以下のような観点から問題を作成した。

- a 文章をパラグラフ単位で捉えることができるか。(問1)
- b 指示語の内容を正しく捉えているか。(問2・3)
- c 言い換えられた内容を正しく認識できるか。(問4)
- d 文章の論理的な展開を正しく捉えているか。(問5)

(エ) 読解力を測るテストの実施(60分)

次の文章を読み、後の問に答えなさい。

- [A] In Japan the subject of one's age often comes up in conversations, and the people seem quite open about discussing it. In fact, "How old are you?" is one of the very first questions asked by the Japanese upon meeting someone from another country for the first time. Some people say that this is a common question in Japan because for Japanese people, the age of foreign people is usually hard to tell or even to guess.
- But that is not a very convincing explanation, because if that were (     ), it should apply not just to the Japanese but to the people of all countries; yet, discussing people's age is something quite peculiar to Japan.
- [B] The more convincing explanation may be this. When you talk in Japanese, one of the things that you must know is the age of the person you are talking to or about, or more specifically, if he or she is younger or older than you are. Without that information, you can't determine the right kind of language to use in a specific situation, and you may sound either too formal or too friendly.
- [C] In Europe and America, however, someone's age is strictly his or her private matter, and it usually requires great caution to bring it up. It might be wiser if you simply avoided talking about it, but if you really need to find out, the subject must be approached very carefully.
- [D] If you don't quite see how offensive the question "How old are you?" is to someone from another country, just think how you would feel if someone asked you if your father is well-educated.

問1 [A]の段落に書かれていることを50字以内の日本語にまとめなさい。

問2 下線部の意味として最も適当なものを1つ選び、その記号を答えなさい。

問3 下線部が表している内容を日本語で答えなさい。

問4 下線部とほぼ同じ意味・内容のものを1つ選び、その記号を答えなさい。

ア said to you, "Is your father well-educated?"

イ said to you, "Is my father well-educated?"

ウ asked you whether his or her father is well-educated.

エ said to you, "Was your father well-educated?"

問5 に入れる最も適当なものを1つ選びなさい。

ア false

イ true

「Duet vol.2」 美誠社(改題)

(オ) 読解力を測るテストの結果

|     | 問1    | 問2    | 問3    | 問4    | 問5    |
|-----|-------|-------|-------|-------|-------|
| 正答率 | 32.5% | 82.1% | 70.7% | 65.0% | 58.3% |

(カ) アンケート内容と結果(テスト返却後)

英語の文章を読むことは得意ですか。

1 得意である(38%) 2 不得意である(57%) 3 どちらともいえない(4%)

今回のテストでの自分自身の評価はどうですか。

1 良くできた(17%)

2 あまり良くなかった(61%)

3 良くできなかった(22%)

で2, 3と答えた人に質問します。良くなかったのにはどのような原因がある  
と思いますか。具体的な単語や文があればそれも記入してください。(自由回答)

- ・ 知らない単語や熟語が多かった。
- ・ 長い文章では、主語や動詞の見わけがつかなかった。
- ・ 問題本文全体の内容がわからなかった。
- ・ 分詞や動名詞が見抜けなかった。

このテストの本文の内容

(1 年齢についての話題が日本では会話によく出る。)

(2 ヨーロッパやアメリカでは個人的な話題であり、避ける傾向にある。)

を、自身の経験や、事前に他から情報として聞くなどして知っていましたか。

1 両方とも知っていた(11%)    2 どちらかを知っていた(75%)

3 両方とも知らなかった(10%)

#### (キ) 考察

問2・問3に比べて、問4・問5の正答率が低いことから、英文読解において生徒は、パラグラフまたは文章全体を意識した読み方をしていないことが分かる。単語や熟語、主語や動詞、分詞、動名詞などの語やセンテンスに意識の大部分が向いていることがアンケート結果にも見られる。

こうした結果を踏まえ、英文を読む際の生徒の意識をセンテンスからパラグラフ、そして文章全体に向けたための方策としてスキニング指導を継続的に行うこととした。

#### ウ 実践指導C(平成19年4月～11月実施)

##### (ア) 目的

英語の文章を読む際の生徒の意識を、センテンスからパラグラフ、そして文章全体に向けたため、読解ストラテジーの一つスキニングを指導する。

スキニングは「探し読み」、「検索読み」と呼ばれ、必要な情報を求めながら文章を読み進める読み方である。

スキニングを実践することで、一文ごとの日本語訳にこだわらずに文章を読み進めること、文章の構造を大つかみに見るができるようになることによって、コミュニケーション能力が向上することを目指した。

##### (イ) 方法

- a スキニングの概要と目的、どのように読み進めればよいのかを説明し、生徒が理解できるように指導する。
- b 速読用の教材から初見の文章(200～270語)を生徒に提示し、5分間で読む。
- c 文章の後についているコンプリヘンション・チェックの問題を読んでから英文に取り組むように指導する。
- d 問題の解答に必要な情報のみを読み取るように指導する。
- e 終了後すぐに解答を提示して確認する。
- d スキニングについてさらに解説を付け加える。
- e 以上の取り組みを毎時間の授業の最初に行う。

(ウ) 指導例

I go to work by train most mornings with a lot of other people who are reading newspapers. But an editor would be disappointed to see how we read it. We look at the headlines quickly to check if anything important has happened. However, we don't actually read the front page stories unless we have time to come back to them later. We go directly to the articles that are most interesting to us.

問 本文で1番おもしろい記事の例としてあげられているものをa～dから2つ選びなさい。

a the front page    b the sports page    c the crossword puzzle    d TV page

(英語速読トレーニング 桐原書店 一部掲載)

(エ) 結果

合計23回実施し、各回の得点を平常点として評価に加味することを伝えて生徒を  
  奨励した。生徒の取り組みは非常に良く、意識の高さが窺えた。

  考査でのリーディングの成績が向上した。

エ 実態調査C2(平成19年10月実施)

(ア) 調査目的

  4月から継続して指導したスキニングの指導効果を検証する。

(イ) 調査方法

  読解力を測るテスト(20分)

次の文章を読み、後の問に答えなさい。

My friend Don considered himself a musician. He played the tambourine in secondary school and, by my recollections, he wasn't very good. He also thought of himself (    ) a singer, but he couldn't carry a tune in a bucket. Years passed, and we lost touch. I went to university and graduate school, becoming a philosophy professor. Don developed his dream of becoming a singer-songwriter and moved to Nashville, Tennessee. Once there, Don made the most of limited resources. He bought a used car and slept in it. He took a job working nights, so he could visit record companies during the day. He learned to play the guitar. As the years passed, he kept (write) songs, (practice) and (knock) on doors.

One day I got a call from a friend who also knew Don. "Listen to this," he said, then held the phone up close to his speakers. I heard a good song playing. Good singer. "That's Don," my friend said, "It's on the country charts. Can you believe it?" I couldn't believe it. A song Don had written and recorded. He had made it. Don Schlitz has since had twenty-three No. 1 songs. (    ) his repeated despair, the teen-age dreamer became a master of success. The \*quest for success always begins with a target. Too many people wander through life like sleepwalkers. Each day they follow familiar routines, never asking, "What am I doing with my life?" And they don't know what they're doing because they lack goals. Goal-setting is a focusing of the will to move in a certain direction. It's important to visualize yourself accomplishing that goal. While losers visualize the penalties of failure, winners visualize the rewards of success. I've seen it among athletes, \*TV personalities and public speakers.

問 1 本文の内容と一致する場合はT,異なる場合はFを(    )内に書きなさい。(内容)

問 2        を日本語に直しなさい。(語彙)

問 3        を日本語に直しなさい。(語彙)

|      |                                                   |
|------|---------------------------------------------------|
| 問 4  | に「～として」という意味になるよう適語を入れなさい。（語彙）                    |
| 問 5  | が表していることを，日本語で答えなさい。（内容）                          |
| 問 6  | を日本語に直しなさい。（文法）                                   |
| 問 7  | を正しい形に直しなさい。（文法）                                  |
| 問 8  | が指していることは何か。日本語で答えなさい。（指示語）                       |
| 問 9  | に入れる最も適当な語を 1 つ選びなさい。[ And, So, In spite of ]（内容） |
| 問 10 | の文型を答えなさい。（文法）（英語長文の徹底攻略 Vol. 3 文英堂 改題）           |

（ウ） 結果

|    | 問 1   | 問 2   | 問 3   | 問 4   | 問 5   | 問 6   | 問 7   | 問 8   | 問 9   | 問 10  |
|----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 正答 | 54.5% | 54.5% | 12.1% | 66.7% | 12.1% | 81.8% | 18.2% | 60.6% | 33.3% | 36.4% |

（エ） 考察

実態調査 C 1 と実態調査 C 2 の結果を単純に比較することはできないが，これまでの指導の問題点と今後の指導の指針を得るため，以下の 3 点について検討した。

< 得点率（％）の比較 >

| 指示語の内容の把握 |         | 言い換えられた内容の把握 |         | 論理的展開の把握 |         |
|-----------|---------|--------------|---------|----------|---------|
| C 1 の問題   | C 2 の問題 | C 1 の問題      | C 2 の問題 | C 1 の問題  | C 2 の問題 |
| 問 2       | 問 8     | 問 4          | 問 5     | 問 5      | 問 1・問 9 |
| 82.1      | 60.6    | 65.0         | 12.1    | 58.3     | 43.9    |

全体に得点率が低いのは，C 1 の英文の内容が日本人一般に関する記述であったため，読解にあたってスキーマが働いたためと考えられる（事後アンケート）。

8 ヶ月にわたるスキニング指導の結果としては物足りないものの，C 2 の英文の内容についてはスキーマが働いた可能性が極めて低いこと，テスト時間 20 分と C 1（60 分）に比べて十分でなかったこと，指導以前の生徒の英文読解に対する自信のなさ等（アンケート結果参照）などを考慮すれば，十分な効果があったとは言えないまでも，今後もこの指導を継続する根拠たり得る結果であったと考察する。

また，今後の課題として以下の点を銘記したい。

- a 語彙不足
- b 文型・構文の理解不足

オ 実態調査 D（平成 19 年 11 月実施）

（ア） 目的

本研究を通して生徒の英文読解に対する意識がどのように変化したかを把握する。

（イ） 方法

初見の文章を読み，内容の要約文をまとめるテスト

（ウ） 考察

生徒は，初見の英文に対して，教員が与えるものではなく自分自身が持つスキーマを活用しながら，フレーズ・リーディングやスキニングによって読解に取り組もうとする態度を身につけた。それは英文を読み進めるスピードが上がったことによって見ることができたが，テストの解答に取り組む生徒の姿勢からもうかがうこともできた。

また、一語一文にこだわり、日本語に置き換えながら意味を捉えようとする生徒が減ってくるという効果がみられ、これは今後四技能からなるコミュニケーション能力の向上につながっていくものと考えている。

語彙力の増強という課題は残るが、取り組みの成果が実感できた。

## 6 研究内容について

読解力が優れている読み手とは、適切な読解ストラテジーをもって英文を効率よく読むことができる読み手であるだけでなく、記述された文、文章に対して働きかけをしながら何らかの情報を読み取る力を備え、その意味内容を理解する読み手のことである（天満 2005）。

本研究においても、読解ストラテジーをもって効率よく英文を読むことにとどまらず、文型やフレーズを意識し、情報の表面的な理解にとどまらない読み方、行間が意味するものも理解できるような読み方のできる読解力をつけることを目標とした。

本研究で取り上げた3種類の読解ストラテジーが大きな効果をもたらすという研究報告は多いが、本校の実際の授業に活用してその効果が得られたことは、生徒はもとより私自身の収穫であった。

英語を読む際にも、教師が英語を頻繁に使って授業を行うことが、実践的コミュニケーション能力の向上に繋がることを生徒が教えてくれた。リーディング指導でも常にコミュニケーション能力を高めることを念頭に置かなければ、本来の外国語学習の目的は達成できない。

## 7 終わりに

この2年間の研究と経験は試行錯誤の連続であったが、本当に多くのことに気づかされたものであった。本校の生徒が抱える英語に対する問題点を少しでも早く解消し、もっと積極的に学習に取り組むようになれば、さまざまな可能性が見えてくるだろうとの思いから取り組んだテーマであったが、生徒全員のリーディング能力が向上したというしっかりとした手応えを感じるには至っていない。しかし、自らのこれまでの授業展開を見直す機会になり今後の授業に必ず生かしていくことができると確信している。特に、訳読式になりやすい授業からいわゆる教室英語を使った授業をしていく必要性を改めて感じることができ、今後は他の分野においても研究を重ね、魅力ある授業を目指していきたいと思う。

最後に、この研究にあたりご指導いただきました、千葉県教育庁教育振興部指導課指導主事 先生、教科指導員 先生、先生、前千葉県教育庁教育振興部指導課指導主事 現千葉県立生浜高等学校教頭 先生、前教科指導員 現千葉県総合教育センター指導主事 先生に心からの感謝の意を表します。

## 参考文献

- |                       |               |        |       |
|-----------------------|---------------|--------|-------|
| 山根和明【編著】              | 「英語長文の徹底攻略」   | (2006) | 文英堂   |
| 天満 美智子【著】             | 「英文読解のストラテジー」 | (2005) | 大修館書店 |
| 高梨 庸雄、卯城 祐司【編】        | 「英語リーディング事典」  | (2000) | 研究社出版 |
| 白畑知彦・富田祐一・村野井仁・若茂則【著】 | 「英語教育用語事典」    | (1999) | 大修館書店 |
| 金谷 憲【編】               | 「英語リーディング論」   | (1995) | 河源社   |
| 高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編 |               | (1999) | 文部科学省 |